

JOYO BANK NEWS LETTER

2026 年 7 月 13 日

環境省「令和 8 年度 E S G 地域金融の普及・促進事業」の採択について

常陽銀行（頭取 秋野 哲也）は、環境省が実施する「令和 8 年度 E S G 地域金融の普及・促進事業（E S G 地域課題解決支援プログラム）」の支援先金融機関として採択されましたので、下記のとおりお知らせいたします。

当行およびめぶきフィナンシャルグループは、「地域とともにあゆむ価値創造グループ」を長期ビジョンの目指す姿として掲げ、今後とも、ステークホルダーの皆さまの課題に寄り添い、ともに歩み、解決することで、新たな価値を創造し、地域社会の持続的成長に貢献してまいります。

記

1. E S G 地域金融の普及・促進事業（E S G 地域課題解決支援プログラム）について

環境省では、地域金融機関等による環境・社会課題の解決に向けた取り組みを後押しし、地域の持続可能性の向上につなげることを目的として、「ESG 地域金融の普及・促進事業」を実施しています。本事業の「ESG 地域課題解決支援プログラム」は、地域の課題を捉え、その解決に主体的に取り組む地域金融機関等を対象に、持続可能な地域づくりに資する新たな価値提供モデルの創出を支援するものです。

2. 採択された事業について

事業名	耕作放棄地をアグリテックの『社会実装ラボ』へ～農地再生エコシステム構築事業
事業概要	以下について具体的な事業としての実現可能性を検討します。 (1) アグリ・サンドボックス*の構築 耕作放棄地を、アグリテックの実証実験の場「アグリ・サンドボックス」として活用できるよう、パッケージ化（活用の仕組みづくり）を検討。 (2) 農業×エネルギー創出モデルの検証 実証フィールド内でソーラーシェアリング（営農型太陽光発電事業）を整備し、農業×エネルギーの地産地消を図るとともに、蓄電池の設置を検討。これにより農業機械や関連設備に必要な電力を自ら賄う仕組みづくりを目指す。 (3) J-クレジットの地域内循環 耕作放棄地再生を通じて創出した J-クレジットを県内製造業者等の脱炭素ニーズに対応する形で販売し、得られた資金を農地の維持管理や実証費用に還元する循環経済モデルの確立を目指す。

*「アグリ・サンドボックス」は、「農業」と「実証実験の場」を組み合わせた本事業における呼称であり、最新の農業技術を実際の農地で試行・検証する実証フィールドを指します。

以 上



常陽銀行

MEBUKI
めぶきフィナンシャルグループ

常陽銀行

〒310-0021 茨城県水戸市南町2-5-5

Tel. 029-231-2151 (代表) www.joyobank.co.jp